

# A characteristic and the assessment of the writing impairments in subjects with Alzheimer's disease

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード: 作成者: 酒野, 直樹, Sakano, Naoki メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/38940">http://hdl.handle.net/2297/38940</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



平成 26 年 2 月 12 日

## 博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号

氏 名 酒野直樹

論文審査員

主 査 (教授) 染矢富士子

副 査 (教授) 少作隆子

副 査 (教授) 能登谷晶子

論文題名 : A characteristic and the assessment of the writing impairments in subjects with Alzheimer's disease (アルツハイマー型認知症者の書字障害の特徴と評価法)

### 【論文内容の要旨】

はじめに：アルツハイマー型認知症（以下 AD）で見られる書字障害は比較的早期から現れる。今後 AD 患者の数が増加すると予想されることから AD 患者の書字能力を評価する方法が必要である。本研究では、AD 者と高齢者を対象にその書字障害の特徴について分析し、また書字能力のどの因子が AD 者に特異的かについて検討した。方法：65 歳以上の高齢者 34 名を高齢者群、AD 者 28 名を AD 群として、自由書字と書き取りによる書字課題を施行し、コンピューターに接続したペンタブレット上の用紙に書かせた。データを書字分析ソフトウェアで分析し、書字に関する因子を 2 群間で比較した。またこれらのどの因子が AD に特異的かを判断するためロジスティック重回帰分析を行った。結果：自由書字では、AD 群と高齢者群間において、評価した 6 つの因子のうち、「書字時間」以外の 5 つの因子で有意差を認めた。すなわち、「文字数」、「文章の横の長さ」では AD 群が有意に小さく、「文字形態の誤りの数」、「文字運用の誤りの数」、「文章の傾き」では AD 群が有意に大きかった ( $p < 0.05$ )。書き取りでの書字では、評価した 5 つの因子のうち、「文章の横の長さ」以外の 4 つの因子で有意差を認めた。すなわち、「文字形態の誤りの数」、「文字運用の誤りの数」、「文章の傾き」では AD 群が有意に大きく、「書字時間」では AD 群が有意に長かった ( $p < 0.05$ )。ロジスティック重回帰分析により、自由書字では「文字数」が少なく、「文字運用の誤り」が多く、「文章の傾き」が大きいことが AD 群に特異的であることが明らかとなった。また、書き取りでは「文字運用の誤り」が多く、「文章の傾き」が大きいことが AD 群に特異的であることが明らかになった。考察：自由書字における「文字数」、「文字運用の誤り」、「文章の傾き」の 3 つの変数、書き取りにおける「文字運用の誤り」、「文章の傾き」の 2 つの変数は AD の書字障害を説明しうる因子となり、書字能力の評価手段として妥当性があると考えられた。両課題で「文章の傾き」が AD 群に特異的な因子となったことから、文章の傾きを評価することは、AD 者の書字の特徴を捉えるうえで重要になると考えた。

【審査結果の要旨】本研究ではアルツハイマー型認知症者の書字の特徴の 1 つとして「文章の傾き」という因子を見出した。アルツハイマー型認知症の書字障害についての解明は、未だ十分でなく、文の傾きに作用する因子は何かという課題も残るが、因子を見出した意義は大きい。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。